

第5章

東北圏在住の外国人からみた視点 I

東北圏特有のもの — 外国人の視点から —

和山 アマンダ

(岩手県政策地域部国際室)

第1節 はじめに

ほとんどの外国人が日本を考えているとき、誰もが東京のネオン、街の灯り、ハイテクな高層ビル、その間をくぐり抜けていく電車を想像します。彼らは京都の穢れなき仏教寺院と平和な庭園を考えます。彼らは北海道の雪原を思い浮かべるかもしれません。しかし、彼らが東京から北にある本州の東北地方 6 県および新潟県（以下、「東北圏」という。）を考えることは稀です¹。東北圏は、外国人観光客が日本で最も訪れていない地域の一つであり、2011年に東北圏を襲った地震および津波による被害を受けた場所としてしか知られていません。

第2節 東北圏の食べ物—伝統的な料理、農産物、酒、ワイン等

全体的に日本の山岳地帯は、大規模な農業には適していませんが、東北圏の広大な土地は、日本の穀倉地帯です。東北圏(新潟県を含む)の7県のうち5県は、食糧自給率が100%を超えており、特に秋田県は2015年時点で自給率が196%に達しています²。東北圏の米は、品質が高く、岩手県産米の主要品種である「ひとめぼれ」は、米のトップAランクを21回以上獲得しています。東北圏では、野菜の種類が豊富であり、季節感がはっきりしており、2月には天ぷらとして揚げて塩を軽くかけて食べるフキノトウを採ることができます。

夏になると、農家直売所では、ズッキーニとオクラが販売されています。そして秋は本当に収穫の季節であり、農家直売所においてたくさんの松茸や里芋が売られています。

今日では、東北圏の地元の人々によって育てられた食べ物を使って料理することが人気となっております。季節に合わせてダイナミックな伝統的なお食事を提供する小さな宿もたくさんあります(そして、その朝採れたばかりの地元の農産物店から購入したもの)。ほとんどの日本料理と同様に、各料理は、5~10種類の異なる食材で構成されており、丁寧に時間をかけて調理されたことが本当に感じられます。すべての料理の背景には常に物語があり、私が東北圏で過ごした最高の瞬間は、「ひつつみ」(※小麦粉を用いた汁物の郷土料理であり、水団の一種)や、岩手県南部で作られた心のこもった汁物やシソ植物の葉のジュース等の作り方を教えてもらったことでした。

(※英文翻訳者) 大江 靖雄、安部 雅人

※ 筆者の許可なしの対外言及・引用は、お控え願います。本稿の全文または一部を引用・転載・複製する際には、必ず出所元を明記願います。

1 本章における東北圏としては、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県に加えて、新潟県も含むものとします。

2 農林水産省による2015年調査結果を参照。

東北圏の小さな町では、自分たちの町に多くの観光客を呼び込もうと努力しています。岩手県南部の釜石市のように、Airbnb（エアビーアンドビー）のような宿泊サイトのサービスを利用して地元の農場にホームステイを促しています。ここでは、お客さまが畑にて農作業を手伝い、夕食を作り、地元の人たちと知り合う経験をします。それは、日本で有名な観光地では簡単にはみつけれないものがあります。こうした種類の「アグリツーリズム」は、東北圏のプロフィールを高め、外国人観光客を増やすために利用されるかもしれませんが、こうした取り組みに参加する小さな町にとっては、利益をもたらす、持続可能なものにするための挑戦ともなります。「アグリツーリズム」は、日本において、ここ数十年の間に発展してきましたが、ホームステイを提供する多くは高齢の農家にとって価値があるものとはみられませんでした。

東北圏の気候は、東京や南日本のそれより少し冷たいですが、北の島である北海道よりも寒暖の差があります。こうした気象条件は、農産物の味わいと耐寒性の両方を改善します。

この気候は、ワイン造りのために適していることが証明されています。おそらく、観光客にとっては、ワイン造り（または酒造り）の盛んな地域を旅して、ショッピングや観光のために滞在することでイタリアの「アグリツーリズム」に似た、より高級感のある体験が展開できる可能性があります。南日本では、あまり使っていない市民ホールを近代的な日本の宿泊施設に改装し、地元住民が地元の食材を使用して食事を提供することで若干の成功を収めている事例もみられます。恐らく、このようなモデルは、東北圏でも使用できるでしょう。

第3節 東北圏の文化—何千年もの歴史

東北圏の夏は、文字通り文化と歴史が織り成す文字通りの旋風です。8月頃になると、ほぼ毎日、東北圏のいたるところで大きなお祭りが開催されているのをみかけます。例えば、岩手の「さんさ踊り」、青森の巨大山車を伴った「ねぶた祭り」、男性が10メートルくらいの竿をバランス良く保ちながら担ぎ上げる秋田の「竿燈祭り」等です。外国人の観光客たちは、おそらく、彼らの国ではみつけることのできない満たされた光景を1ヶ月かけて思い出に残しながら行脚していくことができます。しかし、東北圏において膨大な数の体験型観光ができる夏場の1シーズンだけでは、継続して観光を持続できるものではありません。

私は、「遠野ふるさと村」（遠野伝承園）を事例として紹介します。「遠野ふるさと村」は、遠野市の岩手県中央に位置しています。そこには、古い伝統的な曲屋様式の家を移築して集めた文化複合施設であり、そこにある多くの曲屋の家屋は、数世紀前の遠野における農村生活についての体験プログラムもしくは教育レッスンを提供しています。特に、冬には、曲屋の茅葺き屋根に雪が積もり美しい場所となります。しかし、もし日本語の能力がなければ、この施設は外国人客にとっては、概ね閉ざされた存在でしかありません。ここには、英語による看板がほとんどなく、ほとんどの外国人観光客が持ち合わせていない日本文化についての知識があることを想定しています。このことは、公園そのものが近くに公共交通機関がなく、鉄道駅から遠く離れているという事実として疑う余地がありません。

しかしながら、ちょっとした工夫で、この公園は、外国人観光客にとって非常に魅力的な場所になることができるはずです。英会話の通訳には、多くの資本が必要ですが、表示物の英語への翻訳や訪問者向けの情報の翻訳に対する投資は、音声ガイドツアーの導入と同じように、古くからある遠野に関する文化の窓を開くことについて大きな役割を果たすことでしょう。体験ツアーの予約のためのオンラインプロセスを備えた英語のウェブサイトが鍵となるでしょう。訪問者に対して自分たちの文化を伝えることができる職員を任命し各サイトに配置することで、外国人観光客と地元の市民とがおしゃべりする機会が与えられ、国と国との間にある隔たりの橋渡しとなるでしょう。

このような体験ツアーは、東北圏全域で展開することができます。一日だけ農夫になれます。地元の漁師と一緒に漁業をします。東北圏の各県の中では、唯一となる岩手の伝統工芸品である漆器を塗ることに挑戦してみてください。これらのツアーのほとんどは、日本語でしか利用できませんが、こうしたツアーを外国人向けの観光市場に提供すれば大きな関心と呼ぶでしょう。その場合、東北圏は、地方の文化について深く学ぶことができ、これまでの伝統的な観光では接触することができなかった人々と結び付けるための観光の深い形態を提供するための日本における唯一の場所です

第4節 外国人観光客のための宿泊施設とレストラン

東北圏のどんなツアーもちょっとした素朴なものになるでしょう。日本人観光客向けでさえも、高級志向の旅行の巨大市場はありませんので、大部分の宿泊施設は、ビジネスホテルや旅館（畳の布団で寝る日本式旅館）が大半を占めています。しかし、都市や温泉地域には、高級ホテルがあります。しかし、私自身、外国人としては、都市にある魅力的なホテルであろうと、海岸沿いの素朴な旅館であろうと、私はこれまでにない素晴らしい経験をしたことは一度もありませんでした。レストランには、あらゆる料理ジャンルと価格水準が存在し、地元の食べ物や料理で溢れております。両方の問題は、英語での掲示がないことです。ホテルやレストランは、情報をオンラインに掲載するのが遅く、掲載したとしても日本語でしか表示されません。しかし、ホテルやレストランを宣伝する方法として、トリップ・アドバイザー、インスタグラム、ユーチューブは、ゆっくりと人気を集めており、将来的には、活気のある情報の翻訳を「クラウドソーシング(狭義では、不特定多数の人に業務を委託するという新しい雇用形態)」として実施できるでしょう。

日本の多くの地域は、「特異な国」の中で自らを「特異」なものとして宣伝しています。豊富な天然資源と広大な土地は、大都市の喧騒から逃れようとする人々にとって魅力的な場所となり、素晴らしい食糧を提供します。「特異性」は、何千年もの時を背景にした魅力的で数多くのお祭り、熟練した伝統工芸品、民俗舞踊等、大変豊かな文化に存在しています。

しかしながら、もし、日本語能力がなければ、東北圏の美しさと魅力の多くは言葉の壁の前に閉ざされてしまいます。日本の中でも東北圏は、おそらく日本語能力がないと訪問するのが最も困難な場所です。主要都市の郊外にある地域で魅力的な宿泊施設を建設するのと同様に外国人観光客に円滑な体験を提供するためには多くの作業が行われなければなりません。

それでも、世界のその他地域から隠された「楽園」と「冒険」を探している人にとって、東北圏は、是非とも行くべきところです。

なお、本章の内容に関する写真は次のとおりです（写真1・2・3・4・5・6参照）。

写真1. 盛岡市「さんさ踊り」集合



（出所）筆者HP参照。

写真2. 盛岡市「さんさ踊り」における筆者自画像



（出所）筆者HP参照。

写真3. 岩手県のオンラインストリーミングショーにおける
岩手県知事と筆者の出演



（出所）筆者HP参照。

写真4. ILC紹介ブース



（出所）筆者HP参照。

写真5. 秋田市「竿灯祭り」



（出所）秋田市竿燈まつり実行委員会HP参照。

写真6. 青森市「ねぶた祭り」



（出所）東北電力(株)HP参照。